

	住民ができること	× (かける)	行政にしてほしいこと
災害への備え 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームワークが必要 ・連絡をとりあう(平時から時々確認し合う) ・若い世代にコミュニティ、防災関係の集まりにかかわってもらう ・備えをしっかりとする(行政に頼ることのないようにする) ・避難グッズの近くに貴重品をまとめる ・日頃から余分なものを整理する ・ペットも家族の一員として避難所等でのペットに対するルールを決めておく 	自助・共助・公助	<ul style="list-style-type: none"> ・復興についての知識を持ち、住民に情報を提供する ・道の拡幅をしてほしい ・ふれあいセンターを防災拠点として建て替えてほしい(エレベーター付きで)  
被災時の助け合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所、地域で助け合って手伝いをする(炊き出しなど) ・被害の度合いが軽い人は高齢者やなどの手助けにまわる ・自分勝手なことを言わない(協調性) ・感染症予防のため、できるだけ口腔ケアや水分補給に気をつける 		<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住の安定的供給が必要 ・衛生管理、病人・怪我人の救護 ・災害ボランティアセンター(日赤など)の設置 
復興まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の内容を知ってもらう(区画整理の減歩※など) ・行政から得た知識を周知する <p>※土地区画整理事業で道路や公園などの公共用地を確保するために土地の一部を提供すること</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ライフライン(水、電気、ガス)の速やかな復旧 ・がれきの撤去、ごみの処分、道路の復旧 ・仮設住宅の整備 ・地域活動の拠点となる施設の復旧 ・復興支援の情報提供 
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・土地建物ともに相続登記をしておく 		<ul style="list-style-type: none"> ・現状の墓地が広範囲に散らばっているため、共同墓地として一か所に集める

その他たくさんのご意見をいただきました

●お知らせ

ワークショップだけでなく、ホームページ上に掲載した「意見投稿プラットフォーム」でも意見を募集していますので、気軽にご回答ください。



●お問い合わせ先

高知市 防災対策部 防災政策課
 事前復興まちづくり担当
 TEL:088-823-9055
 FAX :088-823-9085
 Mail:kc-080200@city.kochi.lg.jp

高知市 事前復興まちづくり ニュース VOL.2

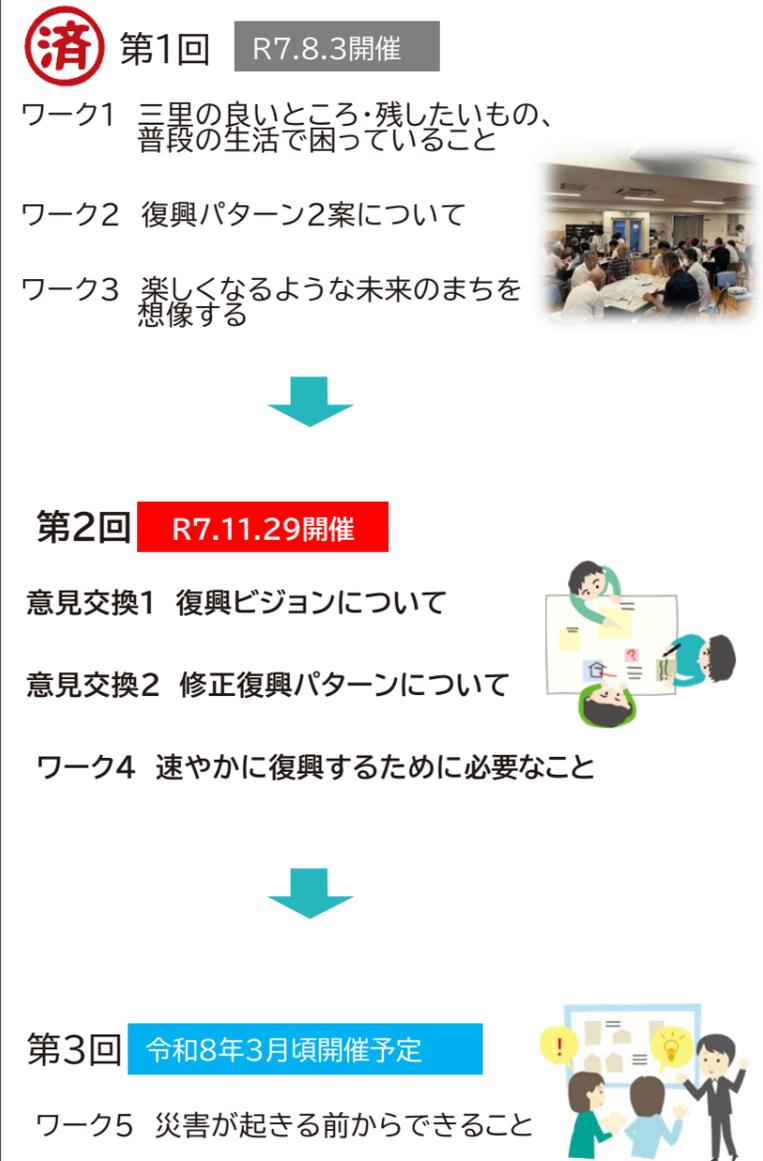
R8.1.23

三里地区 事前復興まちづくり計画 第2回ワークショップ (種崎地区)を 開催しました!

地域の方 20名参加

ワークショップでいただいたご意見のまとめ
 意見交換1は2ページ、意見交換2は3ページ、ワーク4は4ページです

11月29日(土)、種崎地区避難津波センター(たね・シェル)で、三里地区事前復興まちづくり計画第2回ワークショップ(種崎地区)を開催しました。意見交換1では「三里地区の復興ビジョン」、意見交換2では前回の復興パターンから地域の方の意見を反映した「修正復興パターン」、ワーク4では「速やかに復興するために必要なこと」について、みんなで話し合いました。



意見交換1 三里地区の復興ビジョンについて話し合いました。

復興の目指すべき姿=ビジョンを考えよう→第1回ご意見から3案作成し意見交換

○第1回ワーク1~3の結果をもとに考えたビジョン案を提案しました

案1「資源」を主軸

『海・なりわい・歴史の魅力に溢れた 住み良い安心と絆のまち』

案2「防災」を主軸

『人・海・歴史が繋がる 災害に強く、住み続けたいまち三里』

案3「コミュニティ」を主軸

『自然と産業が調和し、人と地域が支え合う、安心を育むまち 三里』

○各班で議論したものを、発表していただきました！

・グループ1 案3を評価

コミュニティが重要。現在は個人情報関係もあって、コミュニティがうまくつながっていない。

・グループ2 案1を評価

人口を増やすためには若者に戻ってきてもらう、残ってもらう必要がある。そのためには園芸農業やなりわいの再生に力をいれていく必要がある。

・グループ3 案2を評価

ほかの地区に比べてつながりが強く、津波避難タワー等が多いため災害に強いまちだと思う。なにより住み続けたいまちということが一番大事。もっと三里らしさをスローガンにおとしていきたい。(説明文を変えるなど)

・グループ4 案2、案3両方を評価

種崎地区は、防災、減災についての意識が高いと思う。「防災」を、常に意識できるようにすることが大事。一方で、「人と地域が支え合う」ことも非常に大事。地域のつながりが防災や減災につながると思う。たね・シエルや津波避難センターでの様々な行事に参加することで地域のつながりを強め、高齢者も若者も支え合って災害に備えていきたい。

発表以外にもたくさんのご意見をいただきました

【このまちが好き】

- ・狭い街並みが好き
- ・しおかぜ、船の音が良い
- ・千松公園、釣り場、キャンプ場、海水浴場、自然がある(特に千松公園)
- ・不便だけど海が好き、海を感じて暮らしたい
- ・住み続けたい、後世に残したい



【人とつながりが大事】

- ・住民ひとりひとりが主役
- ・若者が帰ってこれるまちにしたい
- ・愛ちゃんストアのような地域の人が集まれる店がほしい
- ・日々の地域のつながりから防災につなげたい
- ・昼間は誰もが集まることができ、夜は飲みながら集会できるような場所があればいい



【災害に強いまちにしたい！】

- ・防災は重要
- ・三重防護ができると安全性がアピールできる
- 人口も増加につながる
- ・復興後も安心して住めるまちにしたい



【産業について】

- ・なりわいの再生は重要
- ・産業(施設園芸)を残して若者のはたらく場所を残しておく

【三里らしいスローガンに！】

- ・案1の「海・なりわい・歴史の魅力に溢れた」を案2の「人・海・歴史が繋がる 災害に強く」と入れ替えてはどうか
- ・海や自然を魅力としてスローガンに入れたい

各地区の意見をまとめ、第3回ワークショップで最終三里地区のビジョンをお示しします。

意見交換2 修正復興パターンについて意見を共有しましょう。

1-A案 甚大被害エリア 高上げ型	1-B案 地区一体高上げ型	1-C案 浸水エリア一体高上げ型	1-D案 地区道路ネットワーク 形成型
甚大な津波被害想定地区の高上げ・土地区画整理	種崎地区全体を一体高上げ案・土地区画整理	種崎地区の浸水エリア全体を一体高上げ・土地区画整理 地区道路のネットワーク整備	甚大な津波被害想定地区の高上げ・土地区画整理 地区道路のネットワーク整備
<ul style="list-style-type: none"> ■ 高上げ(区画整理事業) ■ 県道 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高上げ(区画整理事業) ■ 県道 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高上げ(区画整理事業) ■ 市道 道路整備(4m) ■ 県道 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高上げ(区画整理事業) ■ 市道 道路整備(4m) ■ 県道

B案

- ・一番安全で良い
- ・範囲が広く影響が大きいため現実的ではない
- ・多くの建物が残っている可能性があるのでは難しいのではないか

C案

- ・期間がより早い(B案に比べて)C案が良い
- ・範囲が広く影響が大きいため現実的ではない
- ・C案が現実的ではないか(B案に比べて)

D案

- ・A案でも8年かかるため、早期復興を考えるとD案が一番いいではないか
- ・D案が現実的だと思う

区画整理のこと

- ・高齢者等の被害を受けて土地区画整理をしても自力再建できない人のために公営住宅が必要なのではないか
- ・集合住宅を建てて人を集めたいのではないか
- ・A案の土地区画整理範囲内は空き家が多く、住んでいる人が少ない
- ・次の世代につなげるなら、きれいに土地区画整理をした方がいい
- ・子供世代が住み続けたいかが重要
- ・土地区画整理範囲内であれば、壊れていない家も壊して再建する必要があるため気持ちがついていかないのではないか
- ・土地区画整理をする間は一時的に仮設住宅等に移り住む必要がある



道路のこと

- ・人口減少により、復興後も人口が増えないのではないか
- ・その中で道路整備をする必要があるのか
- ・建物がない場所を道路拡幅すれば住民への影響は少ないのではないか
- ・道路が狭いため、道路拡幅は必須だと思う
- ・道路拡幅は平時の段階からやってほしい



その他、心配なこと

- ・倒壊したら道が通れなくなる
- ・家の倒壊対策をする必要がある
- ・家がくずれなかったら保険もむだになる



疑問点

- ・家がなくなるとに補償はあるのか
- ・区画整理する際の空き家はどうか

